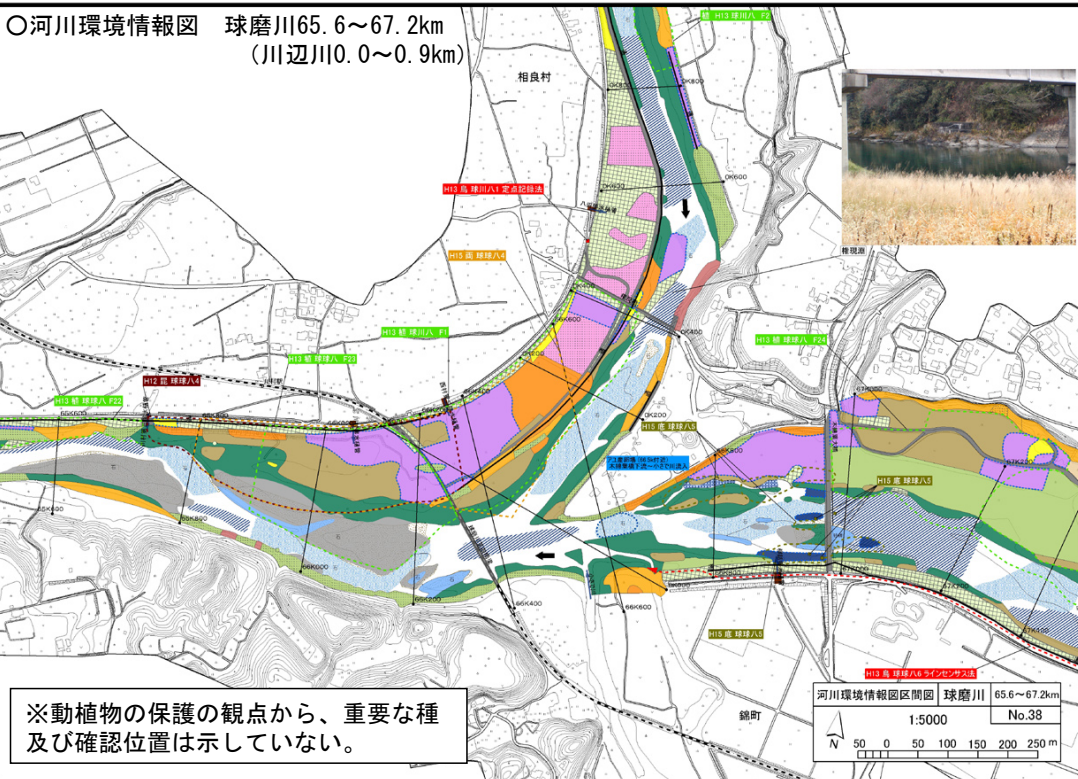


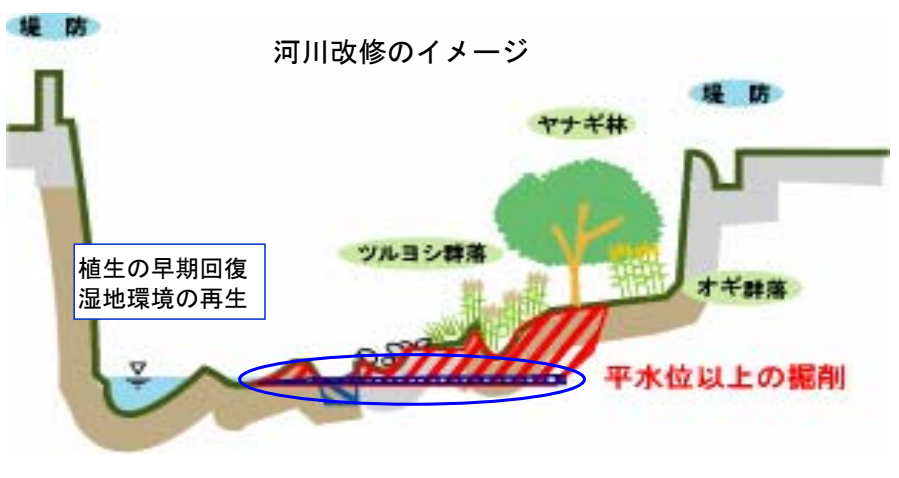
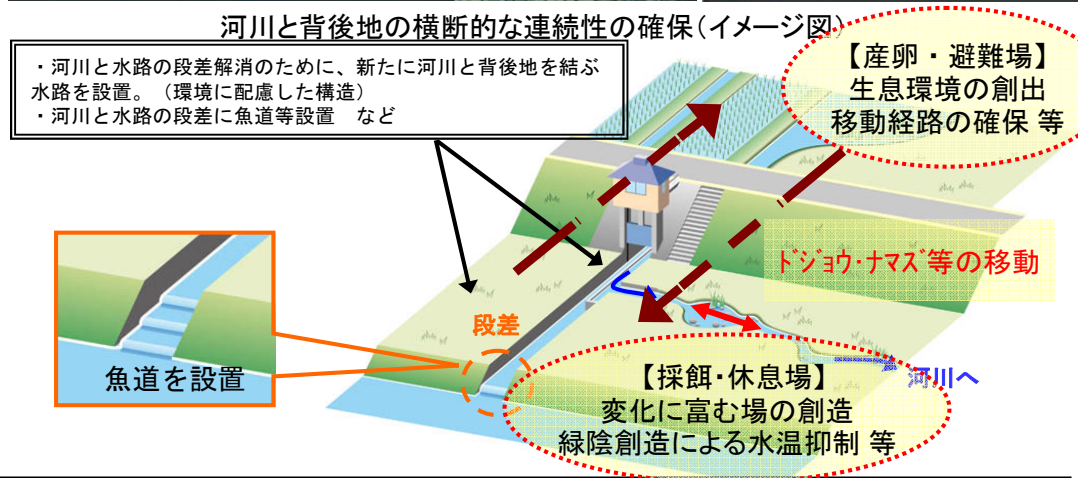
上流部の河川環境と整備の基本的な考え方（2）

- 上流部における河川整備：平水位以上の掘削
 - 生物の良好な生息・生育環境となっているヤナギ林やツルヨシ群落・水際の一部が改変される。掘削にあたっては、人吉層を露出させない配慮が必要。
- 河川と背後地に広がる水田・水路などの横断的な連続性の欠如
 - 段差解消のため魚道等の設置



凡例

生物調査・河川構造物・河川形態・集団分布地・産卵場等情報					植生等の分布状況	
区分	調査範囲	位置	確認位置	特定種	区分	群集名
魚介類					1	洗水・浮葉植物群落
底生動物	球磨八5(66.7~67.1km)				2	堤沿植物群落
植物	球磨八6(66.6~66.8km)				3	一年生草本群落(水際)
鳥類	球磨八4(65.6~66.6km)				4	一年生草本群落(一般)
両爬虫	球磨八4(65.7~66.3km)				5	セイカアワダチソウ群落
陸上昆虫	球磨八4(65.7~66.3km)				6	多年生広葉草本群落
					7	ヨシ群落
					8	ワカボソ群落
					9	草群落
					10	雑草植物群落
					11	ヤナギ林
					12	メダカ群落
					13	ワズ群落
					14	広葉樹林
					15	雑草地(竹林)
					16	雑草地(スギ・ヒノキ等)
					17	耕作地等
					18	人工地帯
					19	人工構造物
					20	自然堤防



- 瀬・淵が連続する区間は、定期的なモニタリングを実施するとともに、河道整備は極力平水位以上の掘削にするなど、瀬・淵の保全に努める。
- 過去の調査で重要種が確認されている箇所については、その生息・生育環境の保全に努める。
- 過去に重要種が確認された箇所での河川整備を行う場合は、出水等により状況が変化している可能性があることから、施工前に再調査を行い、重要種が確認された場合は、必要に応じて専門家の指導を受けながら移植等の保全措置を行う。
- 上流部には、湿地やワンド等が多数存在しているため、工事の際には、凹地等の水分が供給される条件を整えることにより、湿地やワンドの早期回復に努める。
- 工事中の濁水に十分配慮した施工を行う。
- 人吉市街部区間における河道の整備にあたっては人吉層が露出しないよう十分配慮。
- 河川と背後地を結ぶ水路の設置や既設水路の段差に魚道を設置するなど、関係機関との連携・協力のもと、河川と背後地の横断的な連続性を確保することで、生物の生活史に配慮。